

「履歴書」・「業績目録」の記入要領

＜履歴書＞

履歴書について……様式(1)

- 1) 西暦年で記入しワープロ等で印字して下さい。各項目が網羅されていれば枠の広さ等は自由です。
- 2) 性別は、男女の別を○で囲んで下さい。
年齢は、履歴書作成日現在の満年齢を記入して下さい。
- 3) 学歴欄には高等学校卒業以降（大学院の場合は単位取得、学位を有しない場合は退学まで）のすべての学歴を記入して下さい。
- 4) 免許欄には医師・歯科医師等業務に関連する免許証登録番号及び登録年月を記入して下さい。
- 5) 学位欄には学位名、取得大学名、学位番号及び取得年月を記入して下さい。
- 6) 職歴・研究歴欄には、職歴と研究歴のすべて（国外留学、国内留学を含む）を順次記入して下さい。
- 7) 賞罰欄には、大学、学会、医学団体等からの受賞（学術奨励賞、研究奨励賞）その受賞年月も記入して下さい。
- 8) 主たる所属学会及び役員欄には、現在所属している学会名、現職の役職等を記入して下さい。
（例）○○学会会員、評議員、理事
国外における所属学会(国際学会含)で active member は証明書を添付して下さい。
- 9) 主たる学会認定医・専門医等欄には、日本医学会に含まれる各学会で取得した認定医、専門医などを記入しそれぞれ取得番号を付して下さい。
- 10) その他欄には社会における活動、行政機関から委託された委員会及び役職名等を記入して下さい。
- 11) 教育歴のある方は、a 今年度受持授業時間のほか、教育業績、学内外の教育関連の役職、FDやワークショップ等の参加歴、b 医療安全・感染症・個人情報保護・研究費・研究倫理の研修会参加歴、研究倫理研修（eAPRIN）の受講の有無、また、臨床系医師の方は、厚生労働省認定の指導医講習会の参加歴を併せて様式（1）－2に記入して下さい。

<業績目録>

業績目録は、別記様式を遵守し、Ⅰ) 著書、Ⅱ) 学術論文(原著、総説、症例報告、その他の学術論文)、Ⅲ) 学術刊行物(研究報告、その他の学術刊行物)、Ⅳ) 学会及び研究会発表(a. 国際学会、b. 国内学会、地方会及び研究会)、Ⅴ) 受領した競争的研究助成金、Ⅵ) 学術関連広報活動及びその他に分類し、それぞれ別葉とします。各様式の(注)にならい、最近の年次から順に西暦年で記入し、ワープロ等で印字して下さい。記入方法について特に指定のない場合は、すべて記入して下さい。各項目順に枠を設けてもかまいません。

Ⅰ) 著書について……様式(2)

単行本、叢書、また分担執筆(辞書、全集なども含む。)、翻訳、編集及び監修等を記入して下さい。分担執筆は、分担題名を記入し、頁はその該当する頁のみを記入して下さい。(同一著書内での複数項目の分担は合わせて一編とし、2項目からは分担題名、頁のみ記入)

Ⅱ) 学術論文について……様式(3)

①原著、②総説、③症例報告、④その他の学術論文別に記入して下さい。

①原著：学術誌に掲載された独創的な内容の学術論文で、他の学術誌に掲載されていないもの

②総説：展望などを含み学術誌に掲載されたもの

③症例報告：学術誌に掲載された症例報告

④その他の学術論文：短報、レター、図説、臨床治験及びプロシーディング等で学術誌に掲載された論文

※ なお、ここでいう学術誌とは Index medicus、Science Citation Index あるいは医学中央雑誌に登録されているか、レフェリーシステムを有する権威ある学術雑誌(商業誌を含む。)です。

共同執筆者は筆頭者より3名以内とします。但し、本人が該当しない場合のみ4人目に本人の氏名を記載しアンダーラインを引いて下さい。

投稿中の論文は記入しないで下さい。(印刷中のものは認めますが、掲載証明の添付を要します。)

※ 「区分」欄 … 学術論文でのあなたの役割を次にならって記入して下さい。

第1筆者(1st author)の場合 1

第2筆者(2nd author)の場合 2

最終筆者(Last author)の場合 L

コレスポンディング・オーサー

(Corresponding author)の場合 C

コレスポンディング・オーサーとその他の上記役割が重複する場合は、併記して下さい。なお、コレスポンディング・オーサーについては、上記と重複しない場合のみ、それを証明するもの(該当論文中のコレスポンディング・オーサーであることがわかる頁のコピー等)を添付して下さい。証明するものがない場合には、該当論文の筆頭者と最終筆者の証明(様式任意)を作成下さい。

その他

空欄

※「発表誌名」…英文論文の場合は最後にインパクトファクター（2020年版）を記入して下さい。

（記入例） 発表誌名，発表年，巻：初頁～終頁，I F ○○. ○○○

Ⅲ) 学術刊行物について(レフェリーシステムの有無を問いません。)……様式(4)

①研究報告、②その他の学術刊行物別に記入して下さい。

①研究報告：公的機関刊行物、またはこれに準ずる各種学術団体及び委託研究の成果報告で、論文形式（はじめに、方法、結果…）を整えたもの（前述Ⅱ）の④以外のプロシーディングを含む。）

②その他の学術刊行物：教育、解説及び医学講座、ガイドライン等

共同執筆者の記入方法については、Ⅱ）の共同執筆者の記入方法と同様とします。

Ⅳ) 学会及び研究会発表について……様式(5)a及びb

a 国際学会、b 国内学会、地方会及び研究会別に用紙を分け、さらに①特別講演、招待講演、シンポジウム、パネルディスカッション及びワークショップ等、②一般演題及びポスター発表等、③共催セミナー等に分類し記入して下さい。共同発表者の記入方法については、Ⅱ）の共同執筆者の記入方法に準じます。20編以上ある場合は、代表する20編を記入し、最後にその他何編と記入して下さい。

Ⅴ) 受領した競争的研究助成金について……様式(6)

年度、研究費の名称、題名、代表または分担について記入して下さい。

Ⅵ) 診断・治療件数について……様式(7)

2017年4月から2022年3月までに携わった診断・治療件数を記入して下さい。

※ 当該期間中に所属機関の変更がある場合は、機関毎に用紙を分けて作成して下さい。

※ 指導的助手経験数は、診療の現場にて直接指導したものを記入して下さい。

Ⅶ) 学術関連広報活動及びその他

学術関連広報活動は、マスメディア、セミナー及び年報など業績として記録しておくにふさわしい活動を記入して下さい。

※ 所定用紙はありませんので、自由に作成して下さい。